

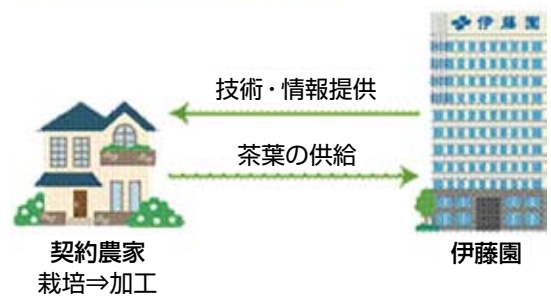
茶産地育成事業 安全かつ安定した原料調達 茶生産者の方々と二人三脚で歩む



多様化する緑茶の飲まれ方
その一方で減り続ける茶園

伊藤園が1985年に世界初の緑茶飲料「缶入り煎茶」（1989年「おいしいお茶」にブランド変更）を発売して以来、緑茶は急須で淹れて飲むだけでなく、缶やペットボトルなどに入った飲料としても飲まれるようになりました。茶葉製品のみであった緑茶に飲料製品が加わり、全体の消費量はますます増加が見込まれています。ところが、そんな消費の拡大とは反比例するように、茶葉の生産現場では就農人口、茶園面積ともに減少傾向にあります。原因として、就農者の高齢化や後継者問題、相場の高下による経営不安などが挙げられ、さらには、地域によって遊休農地の増加が深刻な問題となっています。このような状況のなか、当社は『お茶のトップブランド』として「高品質な国産緑茶原料の安定調達および、生産の効率化」「生産農家の育成」「遊休農地の積極的な活用」のために静岡県、鹿児島県といった「茶処」だけでなく、さまざまな地域の茶農家と契約栽培を行っているほか、新産地事業で遊休農地などを

契約農家と伊藤園の関係性



茶園に造成する茶産地育成事業を展開しています。

全量買い取りを前提とした茶葉の生産による安定経営

■契約栽培

1970年代より開始している契約栽培は、個々の茶農家の方々と対象に、伊藤園と「おいしいお茶」などの製品に使用する茶葉を生産していただく契約を締結するものです。伊藤園はそれらの茶葉を全て買い取るとともに、栽培指導やさまざまな情報提供を行い茶葉の品質向上をめざします。個々の茶農家の方々は、伊

新産地事業と伊藤園の関係性



おいしいお茶
緑茶・濃い味 500ml

新産地事業の展開状況



藤園と全量買い取りを前提とした茶葉を生産する契約（契約栽培）を締結することで、茶価の変動に左右されない安定的、持続的な農業経営が可能になります。このような収益の柱ができることは、雇用拡大、設備投資など、発展的な農業経営につながることも、後継者の育成、担い手不足が解消できると考えています。

遊休農地を利用した茶園の造成

■新産地事業

2001年より開始した新産地事業は、国内の遊休農地などを利用した大規模な茶園造成事業です。「おいしいお茶」をはじめとする伊藤園の緑茶飲料製品に適した良質な茶葉の生産をしていただくための土づくりから始める事業です。茶園の造成と



機械化による省力化 新産地事業 宮崎県都城市にて

茶葉の生産は、地元の市町村や事業者が主体となっていたが、伊藤園はそれらに関する技術・ノウハウを全面的に提供するとともに、生産された茶葉は伊藤園が全て買い取ります。そのため、農業の安定経営につながっています。土地利用型の永年作物である茶は、遊休農地などを長期活用できる作物として最も好適なもののひとつです。地元の市町村や事業者との協力のもと、遊休農地を大規模な茶園に造成し、伊藤園が茶葉生産に関する技術・ノウハウを全面的に提供することで茶の育成技術の修得と伝承ができます。また、現地に設立した茶農家（地元法人）による運営のため地域の雇用の創出に

も貢献すると考えます。また、大規模・機械化・ITによる生産コストの低減も図っています。

茶産地育成事業は現在、新産地と契約栽培あわせて863ヘクタール（2013年4月現在）規模にまで広がっています。



のびのびと育った新芽

環境と共存する茶園経営をめざして

■環境保全型農業

品質や収穫量の確保と環境負荷の低減の両立を追求するため、茶農家の方々には、伊藤園の定めた肥料・農薬の使用基準に基づいて適正な時期・頻度・分量を守っていただいています。また、堆肥には地域で排出

される食品残さや畜産廃棄物を活用して、土壌を豊かにする循環型の農業を推進しています。新産地事業では、CO₂を約40年も吸収・固定できる茶樹を遊休農地に大規模に植えるので、地球温暖化防止にも貢献しています。

茶産地育成事業は、茶農家の安定経営・地域活性化や遊休農地の有効活用、また茶樹によるCO₂の吸収が環境保全に役立つと評価され、2008年12月「茶産地育成事業」お茶の樹を植えて地域に活気」が、エコプロダクツ大賞推進協議会主催「第5回エコプロダクツ大賞（エコサービズ部門）農林水産大臣賞」を受賞しています。



良質な茶葉を畑づくりから育てる